

スタンフォード・京都・アジア諸国とのダイアローグ 「東アジア共同体の時代は訪れつつあるのか？」

2008年の世界的金融危機、日本における政権交代、中国の経済力の勃興などは東アジア共同体という概念を今までにない、切実な今日的テーマとつつあります。そして、太平洋のもう一方の側では、オバマ政権が新しい地域主義への関心を深め、それに対応しようとしています。今年の11月には汎太平洋的なAPEC会議が日本で開かれます。

この東アジアにおける地域主義の将来を形作る重要な時期にあたって、スタンフォード大学のショールスタイン・アジア太平洋研究センター (APARC) は、各国の専門家による第2回「スタンフォード・京都・アジア諸国とのダイアローグ」を開催いたします。そして、これを機会に、ダイアローグ参加者の中から数名が代表として出席する「公開シンポジウム」を開催いたします。

日中韓による東アジア経済共同体という提案は、実現可能なアジェンダなのでしょうか？それは、APECやASEANプラスなど、他の経済統合のアイデアとどう比べられるのでしょうか？経済統合とともに地域的な軍事的安全と政治的安定は、どう保証されるのでしょうか？アメリカはアジアの地域主義とどうかわり、アジアのそれに対する対応はどのようなものとなるのでしょうか？

「公開シンポジウム」では、こうした問題について、以下の各国を代表する識者が積極的に議論を戦わせる予定です。

Public Symposium

参加費無料
【言語】英語
日英同時通訳あり

日時 2010年 **9月10日** (金)
17:00-18:30 (16:30開場)

場所 京都市国際交流会館イベントホール

同時通訳:株式会社サイマル・インターナショナル

モデレーター

◆ 青木 昌彦氏

スタンフォード大学・京都大学名誉教授、スタンフォード日本センター共同理事長

パネリスト

◆ マイケル・アマコスト氏(アメリカ)

スタンフォード大学特別上席フェロー、元・米国駐日大使

◆ 時殷弘(シ・インホン)氏(中華人民共和国)

中国人民大学国際関係学院教授、同校米国研究センター主任

◆ 尹永寛(ユン・ヨンガン)氏(大韓民国)

ソウル大学教授、元・韓国外交通商部長官

◆ トン・ヌー・ティ・ニン氏(ベトナム)

トリ・ベト大学設立プロジェクト代表、元・ベトナム駐欧大使

◆ アンドリュー・マッキンタイア氏(オーストラリア)

オーストラリア国立大学アジア太平洋研究科長・教授

「DO YOU KYOTO?」

環境にいいこと
していますか？

主催：スタンフォード大学アジア太平洋研究センター、
スタンフォード日本センター、京都市

後援：京都府、社団法人京都工業会、京都商工会議所

事務局：株式会社ポラリス・セクレタリーズ・オフィス